

<p>教育・保育理念</p> <p>・自分も友だちも大切に作る心の育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力の発揮</p>

<p>令和5年度重点目標</p> <p>・主体的に生きる力を育てる。</p> <p>・家庭と連携し、基本的な生活習慣を整える。</p> <p>・保幼小が連携し、子どもの健やかな育ちと学びをつなげていく。</p> <p>・地域と連携した園の運営を行い、地域の子育て家庭の支援を行う。</p> <p>・職員の資質向上を目指す。</p>
--

<p>評価の基準</p> <p>A・・・達成している</p> <p>B・・・おおむね達成している</p>
--

<p>園の重点目標</p> <p>・保護者とともに、一人一人の子どもの人権を尊重し、子どもが主体となり夢中になって遊ぶことを大切に教育・保育を行います。</p>

重点目標	重点目標に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価	
主体的に生きる力を育てる	人権を尊重したかかわりの中で自己肯定感を育て、興味関心のある遊びに夢中になり主体的に遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭とのかかわりを通して愛着関係を育み、意欲的に生きていく力につなげる。 ・子どもの発達過程に応じ、個人差に配慮しながら思いを受けとめ、自尊感情を育てる。 ・『みんなちがってみんないい』とお互いの事を認め合い、共に育ちあうクラスづくりを行う。 ・家庭と連携し、こども園が子どもにとって安心できる居場所となるよう努める。 ・集団生活においてルールを守ったり、自分の気持ちや感情をコントロールする力を育てていく。 ・子どもの興味・関心に気づき、子どもが夢中になり遊びこめる環境を整える。 ・子どもの意欲や探求心などを引き出す保育教諭の関わりを大切にする。 ・実体験を通して『みたい』『知りたい』『やってみたい』『なんでかな』と感じ主体的に遊ぶ。 	A	<p>乳児は育児担当制を取り入れ担当保育教諭との愛着関係を基盤に安定した園生活を送ることができた。人権教育計画にそった人権教育を行い、『みんなちがってみんないい』ということをも4・5歳児に伝えた。異年齢児との交流は大きい子への憧れ、小さい子へ優しくかかわる経験となり自尊感情を育むことにつながった。家庭との連携ではドキュメンテーションにて日々の教育・保育を可視化した。送迎時はより丁寧に保護者とコミュニケーションを図ることで保護者と子どもの安心へつなげた。園庭の草花コーナーでバッタ等の虫や自然物と親しみ、不思議に思い図鑑で調べたり遊びに自然物を取り入れたりする姿がみられた。ピオトープづくりを実践し、実体験を通して学ことを意識した。室内環境では各クラスままごとコーナーの整備に取り組んだ。</p>	A
			A		A
			A		B
			A		A
			B		A
			B		A
			A		A
			A		A
家庭と連携し、基本的な生活習慣を整える	子どもの姿から規則正しい生活リズムの大切さを保護者に根気よく伝え、連携しながら基本的な生活習慣が身につくようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の家庭状況を把握し、園児が安定して心地よく過ごせるようにする。 ・家庭環境や保護者のニーズを理解し、ともに子育てしていく視点をも信頼関係を築いていく。 ・保護者自らが子育て力を向上できるように助言し、親子がよい関係で向き合えるよう支援する。 ・保護者へ基本的な生活習慣の大切さを伝える機会を作り共に考える姿勢で保護者と寄り添っている。 	A	<p>登園が昼前になる子どもも多いが、朝から楽しい活動があることを子どもと保護者に伝え朝から登園ができるように支援した。登園がない家庭には毎日電話連絡をして9:30までに登園することを伝え、朝から登園できる子どもも増えた。5歳児保護者を対象に宮園小学校長を講師に迎え育児講座を実施した。保護者が生活習慣の大切さを感じ就学に向けたイメージを持つ機会となった。</p>	A
			A		A
			B		A
			A		A
保幼小が連携し、子どもの健やかな育ちと学びをつなげていく	幼小と交流をもち、それぞれの立場からの教育方針等を交流することで、子ども達の健やかな育ちにつなげていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校児童との交流や小学校教員との意見交流等、連携を通して教育・保育の質の向上をはかる。 ・一人一人の園児の育ちについて、小学校と情報の共有をし、円滑な接続に繋げる。 ・乳幼児期に育てたい力が小学校以降の学びにつながるような指導計画を作成し実践する。 	A	<p>各年齢の発達に合わせた教育・保育を実践していくことの積み重ねが就学に向けた子どもの育ちにつながることを職員が意識して日々の教育・保育を実践した。小学校の授業見学や小学生との交流は子ども、職員にとって貴重な連携の場となった。</p>	A
			B		B
			A		A
地域に根差した(子育て拠点)こども園をめざす	園庭開放やほっと預かり、リフレッシュ預かりに来られた方や地域に出向いた時に、子ども園で取り組んでいる子育て支援事業をPRしたり、積極的に声をかけ、子育ての相談にのっていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係機関や団体等と連携し、協力を図り、適切な子育て支援をおこなう。 ・地域の方へ情報提供を行い、共に子育てを進めていく。 ・園の機能や職員の専門性を活かした子育て支援を行う。 ・地域子育て支援事業を通して保護者の育児に対する負担感の軽減を図り共に子どもの成長を喜び合う。 	A	<p>地域活動事業では園庭開放や件数は少なかったがリフレッシュ預かりを実施した。また、園の職員がそれぞれの専門性を活かし、地域の子育て支援の場に出向いたり、園内で行う育児講座等の機会に地域の子育て家庭の支援を行った。今年度は地域老人会、お話しボランティアの方、えんばわめんと堺、太鼓サークルの方等とふれあい子どもが人とかわる心地よさを知る機会となった。</p>	A
			B		B
			B		B
			B		B
職員の資質向上をめざす	研修や会議、委員会、自己評価、情報交流等で専門性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を通じ専門性や倫理性の向上に努めるとともに、自己研鑽を積極的に行う。 ・職員同士の交流や情報交換を円滑に行い、園児の学びと育ちをつないでいく。 ・理念や方針、教育・保育課程や指導計画について、職員同士が共通理解する。 ・教育・保育実践を振り返り、自己評価を通して質の向上を図っていく。 	A	<p>園内研修やチームアップ研修、その他研修を通して職員が専門性を高めた。その中でも保育環境づくりについては、職員が同じ研修を受けたことがきっかけとなり園として室内環境の充実力を入れることにつながった。ICT操作方法は園内または担当クラス内で学びあい活用につながった。</p>	A
			A		A
			A		A
			A		A

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
保護者の気持ちに寄り添いながら基本的な生活習慣の大切さを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが『今日も楽しい』『明日も行きたい』と思える年齢に合わせた教育・保育を実践する。 ・保護者の気持ちに寄り添い日々の会話を大切にしながら、子どもを中心とした話ができる関係づくりを行う。 ・生活習慣の大切さを育児講座や懇談会等で保護者に伝える。
子どもが夢中になって遊ぶ環境づくりを実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・季節を感じる園庭の自然環境(草花、ピオトープコーナーや菜園等)環境づくりを継続する。 ・子どもの興味関心にあった室内環境づくりを実践する。 ・園内研修で保育環境づくりについて職員が学びを深め実践に活かす。

園長より
<p>今年度も保護者のみなさま、地域のみなさまに支えて頂き、一年間の教育・保育を行うことができました。今年度はコロナ禍でできなかった取り組みが少しずつ再開され、異年齢児との交流や地域、小学校との交流が子どもと職員の園生活を豊かなものにしてくれたことを実感しています。今年度できたピオトープをはじめ保育環境を充実し、子どもが夢中になって遊ぶ中で成長発達をしていくことを目標に次年度も職員で連携していきたいと思っております。一年間ありがとうございました。次年度もどうぞよろしく願っています。</p>